

# ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 256

2017年

5～6月号

## 行 事 案 内

### Enjoy手賀沼!

#### 第28回バードウィーク手賀沼探鳥会 (5月手賀沼探鳥会)

バードウィーク(5/10~5/16)に合わせて実施されるイベント「Enjoy手賀沼!」の一環として探鳥会を行います。我孫子市鳥の博物館と当会が共催し、山階鳥類研究所が後援します。探鳥会には50名前後の市民の参加が見込まれ、当会は探鳥のガイドや認めた鳥の説明などを行います。

会員多数のお手伝いをお願いします。

期 日 5月14日(日)  
集 合 手賀沼親水広場 午前8時30分  
担 当 全幹事(事務局:桑森亮ほか)  
案 内 手賀沼遊歩道を歩く

a)コース(9:15~10:15)

b)コース(9:15~11:15)

どちらかを選んで頂きます。

探鳥後の鳥合わせは班ごとに鳥の博物館で行います。

\*5月の定例探鳥会は、このバードウィーク手賀沼探鳥会に代えます。

\*雨天の場合は鳥の博物館見学会(入場無料)を実施します。

受付9:30から、見学会10:00~11:00

\*雨天の判断は7時30分以降  
「鳥博」 04-7185-2212まで。

### 6月手賀沼探鳥会

期 日 6月11日(日) 雨天中止  
集 合 我孫子市役所 午前9時  
案 内 夏鳥の季節になり、カッコウ、ホトトギスの声が聞こえるようになります。鳥の種類は多くないですが手賀沼ではコブハクチョウ、オオバン、カイツブリなどが雛を育てている姿を見られることでしょうか。田畑ではチュウサギ、アマサギ、葦原ではオオヨシキリの姿も見られます。探鳥で暑さを吹き飛ばしましょう。

解 散 正午  
担 当 小澤

### 5月、6月手賀沼定点カウント

期 日 5月6日(土) 雨天延期  
6月5日(月) 雨天延期  
集 合 我孫子市役所 午前9時  
解 散 正午予定  
担 当 金子雅幸、船津登、桑森亮  
連絡先 桑森亮  
Tel: 04-7182-3149

## 5月、6月ピオトープ調査

期 日 5月4日(木) 雨天延期  
6月1日(木) 雨天延期  
集 合 手賀沼ピオトープ 午前9時30分  
案 内 5-6月は夏鳥のオオヨシキリ、ツバ  
メが見られるようになります。昨年  
5月は15種、6月は14種の野鳥を  
観察しました。木はツツジ、コデマ  
リ、ハナズオウ、アジサイ、シモツ  
ケ、タイサンボクなどの花が咲き、  
草の花も多くなります。花に誘われ  
て蝶も多くなり、6月にはトンボも  
飛ぶようになります。春～初夏の雰  
囲気を感じながら探鳥を試してみま  
しょう。参加希望の方は下記までご  
連絡下さい。  
解 散 午前11時30分  
担 当 鈴木静治  
Tel: 080-3121-4757

## 富士山北麓探鳥会(部分再掲)

期 日 5月20日(土)、21日(日)  
集 合 我孫子駅北口ふれあい広場前  
午前8時  
案 内 富士山北麓を探鳥します。  
一日目は河口湖近くの「創造の森」  
周辺の探鳥です。オオルリ、コルリ  
等の山地帯の鳥が観察できます。  
二日目は「梨ヶ原」周辺の探鳥です。  
日本野鳥の会富士山麓支部の方に  
ご案内を依頼しております。オオジ  
シギ、カッコウ、ホトトギスに期待  
です。(詳細は前号参照)  
交 通 小型バス  
定 員 20名(先着順です)  
宿 舎 フジプレミアムリゾート(世界一富  
士山に近いリゾート)  
Tel: 0555-73-1168  
費 用 29,000円程度  
\*この旅行はキャンセル料が発生す  
ることがあります。  
持 物 観察用具、雨具、防寒具、昼食、飲

物  
申 込 野口隆也まで(旅行傷害保険に入る  
ため、生年月日をご連絡ください)  
Tel: 04-7163-7898  
担 当 間野、野口(隆)

## 三宅島探鳥会(部分再掲)

期 日 6月2日(金)～4日(日)・・・(往き  
夜行船便、三宅島着3日(土)早朝～  
4日)  
交 通 JR我孫子駅 浜松町駅(歩15  
分) 竹芝桟橋(集合場所) 三宅  
島往復船便(東海汽船) 民宿(又  
は旅館)に1泊。島内移動・探鳥  
は三宅村営バス・徒歩。  
案 内 当会の公式行事としては初めての  
三宅島探鳥会です。期待する鳥の例  
としては、アカコッコ、イジママ  
シクイ、ヤマガラ(オーストンヤマ  
ガラ)、カラスバト、(夜間は、アオ  
バズク、オオコノハズク)などで、  
代表的な三宅島の鳥たちを探しま  
す。(帰路)船上から、オオミズナ  
ギドリなど海鳥も。  
本探鳥会は6月とまだ先ですが、  
事前説明会を、開催することも検討  
しています。(詳細は前号参照)  
費 用 概算で3～3.5万円程度  
\*この旅行はキャンセル料が発生  
することがあります。  
定 員 15名(先着順です。まだ若干名余  
裕が有ります)  
締切り 定員になり次第締め切ります。  
持 物 観察用具、雨具、防寒具、常備薬、  
ファーストエイド品、嗜好品など。  
申 込 桑森亮まで  
Tel/Fax: 04-7182-3149  
担 当 鈴木静治、田中功、桑森亮

## 第 24 回「野鳥サロン」スペシャル

春の渡りのシーズンとなってきました。今年も手賀沼周辺にはチュウシャクシギ、キョウジョシギ、キアシシギ、トウネン、ハマシギ、ムナグロ、コチドリなどが元気な姿を見せてくれるでしょう。これらのシギチは何処から渡って来、日本で休息した後、何処へ渡っていくのでしょうか？

繁殖地、越冬地ではどのような生活をしているのでしょうか？

そして、それらの営みには、変化が起きているのでしょうか？

シギチの渡りのルート / 時期、繁殖地 / 越冬地での生息状況、標識調査とその状況に関しては、ラムサール条約加盟地域間ネットワーク / シギチ生息地ネットワークなどで追跡調査 / 現地調査などの国際的研究が行われています。

今回の野鳥サロンでは、当会の友好団体である谷津干潟自然観察センター、行徳野鳥観察舎友の会のご協力を得て、これらの活動に参加されている谷津干潟自然観察センター副所長芝原達也様、行徳野鳥観察舎友の会佐藤達夫様にご参加いただき、下記の如く、スペシャル版野鳥サロンとして開催いたします。

シギチの渡りに興味をお持ちの方、シギチ渡りの国際的追跡調査にご興味をお持ちの方、シギチの繁殖地 / 越冬地の状況に興味をお持ちの方、ラムサール条約、谷津干潟自然観察センター、行徳野鳥保護区に興味をお持ちの方、こぞってご参加ください。

開催日時：5月27日(土) 13:30~17:00  
(開場:13:00)

会場：水の館3階研修室(予定)  
[水の館不可時、北近隣センター第2・3会議室](水の館の予約正式決定時点(5/1頃)に再度ご連絡いたします。)

プログラム(案)

- 1：開会の挨拶 間野会長
- 2：シギチの越冬地の現状と渡りに関して  
谷津干潟自然観察センター 芝原副所長
- 3：シギチの繁殖地の現状と渡りに関して  
行徳野鳥観察舎 佐藤達夫様
- 4：意見交換、自由討議
- 5：閉会

申込先：担当幹事 村井みといまで

メール：

ab-yacho-entry@abikoyacho.sakura.ne.jp  
(申し込み受付専用のメール・アドレス  
を用意しました)

電話は不在が多いため、できるだけ  
メールでのお申込みをお願いします。

期限：5月19日(金)

担当：弘實(和)、村井、相良

## 新入会員オリエンテーション

今年度も“新入会員オリエンテーション”  
を下記の様に開催いたします。

当会の歴史・活動の詳細、探鳥の楽しみ方など、当会の全てを丸ごと知って頂ける良い機会です。

昨年度入会された新入会員の皆様が対象ですが、一般会員の方の参加も歓迎します。  
参加希望者は、下記申し込み先へ、期限までに申し込みください。

記

開催日時：6月24日(土) 9:30~12:00

会場：未定 (決定次第配信メールでご連絡します)

アジェンダ：

プレリユード (開会 15分前より)

野鳥動画 / スライド・ショー放映

開会

1：歓迎の挨拶

当会運営体制 (組織、役員、事務局)  
紹介

2：当会の紹介

当会の他では得られない特徴 / 楽しみ

当会の名人たち

当会の年間活動

これまでの探鳥地と出会った鳥たち  
こんな時のコンタクト先

3：先達に聴く 探鳥の楽しみとヒント

探鳥を楽しむための心構えと準備

(探鳥会参加の準備、ルール、マナーなど)

鳥を素早く見つけるヒント

(鳥の見つけ方、見分け方のヒント)

探鳥の楽しみ方

(探鳥、探鳥会参加の楽しみ方)

4 : 今後の活動予定と参加の案内

5 : 質疑応答&懇談

6 : 閉会

申込先: 担当幹事 野口紀子まで

電話: 04-7182-7232

(電話での連絡は 14 時以降をお願いします)

メール:

ab-yacho-office@abikoyacho.sakura.ne.jp

期限: 6月10日(土)

その他: 参加者には、当会の活動をあまねく紹介する当会特製DVDを進呈いたします。

新入会員の皆様には、担当幹事の野口(紀)から別途案内いたします。

担当: 相良、船津、野口(紀)

### 5月役員会案内

日時 5月14日(日) 13:15~16:00

場所 北近隣センターつくし野館

第1,2会議室

議題

平成29年度下期行事計画について

平成29年度役員の仕事別分担について

幹事の補充選任について

会報257号掲載予定記事について

第25回野鳥サロンについて

報告事項

・対外対応状況 他

その他(議題のある場合は桑森までご連絡下さい。)

## 行事報告

### 2月手賀沼探鳥会

日時 2017.2.12 9:00~12:00

快晴 強風 7

第2機場ではナガエツルノゲイトウを食べるバンの姿を、遊歩道からは寝ているカムムリカイツブリ、オカヨシガモを見ることができたが、風の影響か小鳥類の姿が見られなかった。いつものハヤブサの姿も無く、早めにヒドリ橋に着いた。

道の駅での休憩後、カウントと下見で確認しているオオハクチョウを見る為にハスの群生地に寄った。あいにく5羽とも寝ていたが、嘴の黄色で確認できた。枯れた蓮の中を数列ものマガモの大群が移動している姿は圧巻だった。

最終地のお立ち台では風がますます強くなり、小型の水鳥の姿は確認できず、田圃のタヒバリの群れを見て帰路に着いた。

<認めた鳥> コブハクチョウ、オオハクチョウ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、

カイツブリ、カムムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、バン、オオバン、タシギ、ユリカモメ、ミサゴ、トビ、ノスリ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、アオジ、オオジュリン 計39種  
番外 カワラバト

<参加者> 武藤康之、鈴木静治、野口紀子、西城猛、石渡成紀、森本宣久、相良直己、間野吉幸、玉井修一郎、小玉文夫、野口隆也、千葉洋、野倉元雄、桑森亮、田丸喜昭、小林博之、古出洋子、岩田孝之、岩田マキエ、北原建夫、佐藤弘美、石井俊子、常盤孝義、榎本右、松本勝英、川村美智子、川村美恵子、菊池幸雄、菊池昌江、船津登、西嶋昭生、金子幸子、村瀬和則

(担当) 松田幸保 計34名

### 2月手賀沼定点カウント

快晴 強風 5~8

調査日時 2017.2.8 9:00~12:15

晴れ 北西の風強し 5~8

天気予報に反し今日もカウント中強い風が吹き続け、沼面にはユリカモメとカルガモ以外ほとんど見られない寂しい状況でカウントに苦労した。

3日続きの強風で風を避けた鳥たちが葦原周辺に群れていて、特に下沼のハス場ではマガモの大群が見られ、オオハクチョウも観察できた。(葦原で数えられない個体もいたと思われる)

総数では前年(701羽)の倍以上であり、前月(1311羽)をも上回った。

調査種	上沼	下沼	合計
コブハクチョウ	18	30	48
オオハクチョウ	0	7	7
オオカモ	5	1	6
ヒドリカモ	0	104	104
マガモ	0	702	702
カルガモ	72	30	102
コガモ	215	7	222
ホシヅロ	0	15	15
ミコアイ	1	1	2
カイツブリ	25	3	28
カンムリカイツブリ	10	1	11
ハシロカイツブリ	1	0	1
カワ	26	30	56
アサギ	2	1	3
タビ	2	5	7
コサギ	1	3	4
バン	1	0	1
オオバン	16	53	69
ユリカモ	153	13	166
合計	548	1006	1554

<調査者>桑森亮、金子雅幸、船津登 計3名

強風で沼に白波が多く立つ。遠くに白き富士山が見える。沼には水鳥が見えない。観察範囲外上空を20羽位のマガモ。ユリカモメの群れが飛ぶ。斜面林上をトビ(観察範囲外)が飛ぶ。田ではノスリが飛び、風を避け餌を探すカワラヒワ、カワラバト、ハシボソガラスが見られた。ピオトープの池にはカルガモ、コガモ、オオバン、バン、カイツブリが泳ぎ、葦の茂みでホオジロ、アオジ、カワセミが見られ、スズメ、カワウ、コサギ、アオサギ、ゴイサギがその上を飛ぶ。なおゴイサギは2014年11月以来観察していないので久々のゴイサギでした。強風の中でも観察した野鳥は比較的多く21種211羽。他に小動物1種、木の花1種、木の芽2種、木の実3種、野草の花1種、野草の花穂、種子3種も観察出来ました。

<認めた鳥>カルガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、コサギ、バン、オオバン、ユリカモメ、ノスリ、カワセミ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ツグミ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ

番外 カワラバト 計21種211羽  
<調査者>鈴木静治、船津登、間野吉幸、金子雅幸、池田日出夫、千葉洋 計6名

### 3月手賀沼探鳥会

日時 2017.3.12 9:00~12:05

晴 微風 8~11

朝の天気予報の「絶好のお出掛け日和」通り、穏やかな探鳥会になりました。

最初の北千葉第二機場は、ノスリ、ハヤブサが“お出掛け”で見られず、水面でもコガモが数羽。早々にヒドリ橋方向へ、暖かい遊歩道で枯れ葦原でオオジュリン、樹木上でカシラダカを楽しむ。

ヒドリ橋では、河口横の湾処(わんど)内で、なんとヨシゴイ！越冬個体か？さらにその傍らをクイナが行き来するというサプライズが発生。スコープやカメラもそこに集中して皆さん大興奮していました。96鉄塔にハヤブサもやって来てこちらは初参加の方に大サービス。橋下にはバンもカイツブリと

### 2月手賀沼ピオトープ調査

調査日時 2017.2.2 9:30~10:55

混ざって健在でした。予定時間はとうにオーバー気味になっていました。

道の駅でのトイレ休憩後、ハス群生地に立ち寄り、様子見すると、ホシハジロが10数羽ひと休み然と浮かび、マガモ、コガモは若干で、オオバンが伸び伸びと動き回っていました。次いでお立ち台に向かう途中、車内から、電柱の頂きに止まるノスリ、チョウゲンボウに連続して遭遇する強運に恵まれました。

お立ち台に到着の時点で11時20分、沼面を懸命に探鳥するがユリカモメ、カンムリカイツブリが散見できる程度、諦めかけたところで沖の杭上に待望のミサゴを認め、ほっとしました。

先月に比べ、一気に寂しくなった手賀沼でしたが、ヨシゴイとの出会いという稀有な探鳥会になったのは、参加の皆さんの日頃の心掛けによるものと思われます。

<認めた鳥> コブハクチョウ、オカヨシガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、ヨシゴイ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、クイナ、バン、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ノスリ、カワセミ、コゲラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ムクドリ、アカハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン 計45種 番外 カワラバト  
 <参加者> 桑森亮、渡邊俊文、野口隆也、小澤淳宏、武藤康之、間野吉幸、類地佑子、金子幸子、川越久枝、船津登、西嶋昭生、森本宜久、野倉元雄、青木明、村松寿夫、工藤和生、工藤敦子、渡辺添楽、坂元貴子、菊池幸雄、菊池昌江、相良直己、小林博之、小林美智子、野口紀子、小玉文夫、石井俊子、石渡成紀、古出洋子、村瀬和則、佐藤弘美、木村稔、田丸喜昭、千葉洋、百瀬喬  
 (担当) 松本勝英 計36名

調査日時 2017.3.3 9:00~12:30  
 晴 北風やや強く寒い10~14

やや強い北風でカモ類が葦に入り込み、北帰行で減少しつつある中、難しい調査となった。

マガモ、コガモが前年より150羽以上カウント出来た為、総数では3か月連続の1000羽以上を記録した。(3か月累計では、約1500羽の増加。)

帰路、ミヤマガラスが200羽強採餌する場面に遭遇。(コクマルガラスは確認できず) また、前月に続き綺麗なビンズイの出会いがありました

調査種	上沼	下沼	合計
コブハクチョウ	9	38	47
オカヨシガモ	0	5	5
オカヨシガモ	39	0	39
ヒトリカモ	0	66	66
マガモ	0	242	242
カルガモ	30	78	108
オカガモ	1	0	1
コガモ	192	54	246
ホシハジロ	0	33	33
ミコアイサ	0	2	2
カイツブリ	21	4	25
カンムリカイツブリ	8	3	11
ハジロカイツブリ	1	0	1
カワウ	26	52	78
アオサギ	2	1	3
ダイサギ	5	2	7
コサギ	1	4	5
バン	6	1	7
オオバン	31	66	97
タシギ	1	0	1
ユリカモ	31	4	35
セグロカモ	1	3	4
合計	405	658	1,063

<調査者> 桑森亮、船津登、金子雅幸 計3名

### 3月手賀沼 定点カウント

### 3月手賀沼ピオトープ調査

調査日時 2017.3.9 9:30~11:30  
晴れ 弱 中位の風 9~13

晴天で冷える。五本松公園手前で白き富士山が見える。斜面林の家の庭に黄色の菜の花、桃色の木の花も見える。野草の花はまだ少ない。暖かくなるにつれ蝶、テントウムシ、蟻が出てきた。沼の中には鳥はほとんど見られなかったが、沼岸、ピオトープ、水田には見られ、26種 166羽観察出来ました。観測範囲外の繁みでウグイスの初音が聞こえた。沼岸ではカルガモ、カイツブリ、オオバンが泳ぎ、チュウヒ、ユリカモメが飛ぶ。ピオトープでは池にオオバン、コガモ、コブハクチョウ、バンが泳ぎ、アオサギ、コサギ、ダイサギが水中で餌獲り。カワセミが飛ぶ。池の周りの葦原でオオジュリンが葦の茎をかじり、アオジ、ホオジロ、モズも見られ、カワウが池に着水した。

他に蝶 1種、蟻 1種、テントウムシ 1種、小動物 1種、木の花穂 3種、木の実 3種、野草の花 5種、野草の葉芽 11種、野草の種子 3種も観察出来ました。

<認めた鳥> キジ、コブハクチョウ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、バン、オオバン、ユリカモメ、チュウヒ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ツグミ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン 計 26種 166羽

<調査者> 鈴木静治、間野吉幸、船津登、金子雅幸、池田日出夫、千葉洋 計 6名

---

---

## 渡良瀬遊水地探鳥会

2月 19日

---

---

### ~ 強風のためコミミズクは残念 ~

森本宜久

今日は、コミミズクやいろいろな猛禽類が期待できるとのことでワクワクして出発。途中、雪を頂く日光や赤城の連山、遠くに浅間山や富士山も望め素晴らしい眺望を満喫し、10時過ぎに一面葦原の現地に到着。谷中村ゾーンでは早速先輩方がベニマシコを発見。お腹のほんのりした赤さに感激を覚える。そ

して広場には 10 数羽のアトリの群れも。道路脇にホオジロ、カシラダカ、ツグミ等を見ながら次の調整池に向かい、池ではマガモやヨシガモを観察。尾の丸く下がる優美な姿に暫し見惚れる。

鷹見台では強風が吹き荒れる中、辛うじてチュウヒとトビの姿を認め一安心。

そして本日の狙い目のコミミズクを求め第 3 排水場の土堤際に移動し、3 時過ぎまで車の中で待機する。しかしこの強風下では難しく、またの機会に期待することとし帰路につくことに。道の駅で鳥合わせをし、33 種 + 1 の結果でした。

強風に見舞われたが、遠く山容が美しく、ベニマシコ、ヨシガモそして川辺でのカワセミなど愛らしい鳥たちの姿が観察でき、満足の日でした。

色々準備頂いた幹事様、安全運転して頂いた皆様、そして何かとご教示頂いた先輩の皆様方に感謝感謝の探鳥会でした。有難うございました。

### 【幹事報告】

我孫子を出発した時は雲一つない快晴で、絶好の探鳥日和かと思われたが、現地に着くと風が次第に強まり、荒天の中での探鳥会となった。

参加者は総勢 22 名。我孫子 8 時発、国道 16 号線を経て、新 4 号線バイパスに入り、途中「道の駅庄和」でトイレ休憩、その後 354 号線を経由して渡良瀬遊水地北口から遊水地内に入り、谷中村史跡保全ゾーンに到着。所要時間 2 時間弱。

渡良瀬遊水地はヨシ原が広がる大湿地帯。面積は 33 平方 km に及び、観察ポイントを絞り込み、車で移動した。観察ポイントは次の通り。

(1) 谷中村史跡保全ゾーン (2) 第 1 調節池付近 (3) 谷中橋付近の池内水路 (4) 鷹見台 (5) 第 2 排水門付近 (6) 第 3 排水門付近

強風による悪条件下での探鳥会であったが 33 種の野鳥を観察した。

最初の谷中村史跡保全ゾーンでは、草むらで餌をついばむベニマシコやアトリの大群等を観察。また、第 1 調節池ではヨシガモ、マガモ、オオバン等がみられ、車で移動中にはホオジロ、カシラダカ、アオジが路端で群

れているのが度々みられた。猛禽類は強風のせいか余り出現しなかったが、それでもトビ、チュウヒ、ノスリ、チョウゲンボウを確認できた。最後に、今回の目玉でもあるコミミズクを見るため第3排水門付近に移動し、堤防沿いで待機したが、強風のため2時間ほど待っても出現せず、やや期待外れではあった。その後、遊水地を出て「道の駅きたかわべ」で鳥合わせを行い、4時に解散した。

<認めた鳥> キジ、ヨシガモ、マガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、タゲリ、ユリカモメ、セグロカモメ、トビ、チュウヒ、ノスリ、カワセミ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、アトリ、ベニマシコ、シメ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ 計33種  
番外 カワラバト

<参加者> 鈴木裕爾、鈴木幸子、森本宜久、佐和橋みどり、船津登、井上正、金子幸子、桑森亮、相良直己、小玉文夫、小澤淳宏、浅野利幸、佐藤貴子、小林千恵子、坂元孝行、坂元貴子、吉田隆行、大久保陸夫、津村勝吉、阿保進

(幹事) 野口隆也、石渡成紀 計22名

---

---

### 常磐港巡り探鳥会

---

---

3月4~5日

#### ~ミツユビカモメ、オオハムが大成果~

浅野利幸

一昨年(2015.1.17-18)は銚子から南下、鴨川迄のコースでケイマフリ、ツクシガモ、アラナミキンクワ等の比較的珍しい鳥に会えたことを思い出します。

今回は港巡り第2弾として小名浜港から波崎漁港迄の企画を、金子さん松田さんコンビで計画していただき有難う御座いました。

我孫子駅北口ふれあい広場前を7時30分出発、参加者19名、高速道路を使って最初の探鳥地小名浜港を目指した。

探鳥会ですが写真で記録を残す為、カメラ目線での報告となっています。

小名浜港で探鳥スタート。少し遠くに

ウミスズメが泳いでいるのが数か所見られ、綺麗なウミアイサの、ハジロカイツブリ、近くでシノリガモののペアも楽しませてくれた。海産物のお店や海の幸の食堂(ららミュウ)があり、それぞれ好みの食堂で昼食をとる。

平潟漁港はウミネコ程度。

大津港では綺麗なアカエリカイツブリ、ヒメウ等を撮影。

高戸小浜海岸、バスを降りてまず目に入ったのは入り江近くの木に止まるハヤブサ、全員で観察できた。

高戸前浜海岸、遠くの砂浜に座っているオオハムをスコープで確認、我々カメラ組は少しずつ近づいてシャッターを切った。さらに寄ってもこちらを見ているが、座り込んだまま。多分体調が悪いのではないかとソット引き上げた。又イソヒヨドリが飛んできて少し先の岩に止まってくれた。

久慈漁港は鳥影が見られなかったのでその先にバスで移動。

久慈川河口ではカモ類が見られたが、カメラ組は砂浜で2羽のウミアイサにカメラを向け、やがて海に向かうまでを撮影。1日目の探鳥を終了し、磯崎温泉ホテルニュー白亜紀へ。天然温泉で疲れを取り、海の幸とお肉料理のご馳走をいただく。

2日目、朝食はバイキング方式を食べて探鳥スタート。

平磯海岸、岩礁もありシノリガモが見られた。

那珂湊漁港、目の下に少し赤いラインもみられ図鑑通りのミミカイツブリ。

大洗漁港、一番の感激はミツユビカモメが見られると古出さんに呼んでいただき、今季まだ見ていない鳥が近すぎる位眼下に見られ、じっくり撮影でき参加したことの喜びを感じた事。他に、逆光気味であったがウミアイサの追い込み漁を教えていただいた。

涸沼、まずミサゴが飛んできてオオワシ撮影の練習だと言いながら撮った。

本命のオオワシは見られなかったがハジロカイツブリの団体での漁や、すぐ近くで完全に夏羽になった2羽のハジロカイツブリで満足。

大竹海岸をみて途中カスミで弁当を購入、



車中で昼食。

最後の波崎漁港では、ウミスズメ、ウミアイサ、アカエリカイツブリ等、眼下で見られたオオハムは、嘴、背中の色もはっきり見られた。

私にとって今回の探鳥会では珍鳥は見られなかったが、ミツユビカモメ、オオハムが近くで撮影できたのをはじめ、2日間いろいろの水鳥が見られ成果が大きかった。参加された皆さん、幹事さんお世話になりました。

尚、撮影した鳥の写真もフォトギャラリー等で御笑覧ください。

#### 【幹事報告】

2度目の港巡りは小名浜港から波崎漁港までの常磐路線。普段行く機会の少ない港でどんな鳥達と出会えるか、不安半分・期待半分のスタートだったが結果的には、小名浜港ではピロードキンクロやオットセイ、高戸海岸では砂浜に上がったオオハム、大洗漁港では目の前のミツユビカモメなどなど夫々に予想外の出会いがあり、鳥と海岸美を楽しめた2日間だった。又、波崎新港では大型漁船が船団を組んで出航する圧巻のシーンにも遭遇した。今回は立ち寄り場所が多く乗り降りを何度も繰り返して頂いた皆様、大変お疲れ様でした。

<認めた鳥> コブハクチョウ、ヒドリガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、コガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、シノリガモ、クロガモ、ピロードキンクロ、ウミアイサ、ミミカイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、アカエリカイツブリ、オオハム、シロエリオオハム、カワウ、ウミウ、ヒメウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、クロサギ、オオバン、ミヤコドリ、ウミネコ、カモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ミツユビカモメ、ユリカモメ、ウミスズメ、ミサゴ、トビ、ノスリ、ハヤブサ、モズ、カケス、ハシブトガラス、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、シメ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン 計60種

番外 コジュケイ、ドバト

<参加者> 浅野利幸、石塚喜久夫、大久保陸夫、金子幸子、木村稔、桑森亮、古出洋子、

古賀嗣朗、小玉文夫、相良直己、鈴木静治、多葉田五男、中西榮子、中根忠、弘實和昭、船津登、間野吉幸(幹事) 松田幸保、金子雅幸 計19名

---

---

### 秋ヶ瀬公園探鳥会

---

---

3月19日

#### ～探鳥会に初参加して感じたこと～

松村直道

私は本会の家族会員です。家内から「鳥に関する見識を得るのによい機会だから」ということで、初めて参加させていただきました。以下、感じたことを雑駁に記します。

朝8時に我孫子駅の北口ロータリーに集合、朝はうす曇りでしたが、陽が上るにつれて気温は上がり、長閑な探鳥日和になりました。常磐道と外環道を経由して、9時過ぎに秋ヶ瀬公園に着きました。休日のためか交通量が少なく、意外と早く着きました。

私は、趣味が登山なので、自然の緑は専ら山岳地域に求めていましたが、首都圏のそれも都心に近い所に、こんなに広い緑地が残っていることに驚きました。桑森さんの話によるとここは国有地の河川敷なので、開発されずに保存されたということです。それにしても、河川敷にこれほど広大な自然の森が保全されているのは本当に驚きです。

駐車場に車を止めて、最初の探鳥地である子供の森に入りました。中根さんの話ですと、ここはレンジャク類とアカハラやアトリの観察が期待されるそうです。樹幹に近いところの宿り木は冬でも緑で、その実を食べに鳥が来るとのことです。しかし、今年は残念ながら、その姿を見ることができませんでした。しかし、1時間余の間に、コゲラ、シロハラ、ツグミ、トビ、ヒヨドリ、アトリ、モズなどを観察できました。私は、望遠鏡を持参していなかったので、会員の方々に名前を教えてもらい、野鳥図鑑で実物を確認することにしました。我が家の狭い庭にも、アオジ、メジロ、ヒヨドリなどが来ますが、こちらの森の鳥の方が、心持ちゆったりと穏やかな鳴き声をしているようでした。生息する環境の差なのでしょうか。

次の探鳥地の三ツ池公園は行楽客の車で

駐車場が満杯なので、ここはパスして、2~3 キロ北にある三番目の探鳥地ピクニックの森に向かいました。ここは西を荒川、北を国道 463 号、東をサッカーのレズの練習施設等に囲まれ、かなり車の雑音がありました。自然林がよく保存されている感じでした。

森に入ると、アカゲラの鳴き声が聞こえましたが姿は見えませんでした。その後、葉の落ちた落葉樹の樹間に、シジュウカラ、エナガ、アオジ、モズなどを観察できました。渇水期の池では、カルガモの番い 2 組がのんびりと泳いでいました。1 時間半ほどの探鳥の後で、バーベキューコーナーらしき所で昼食、その後、12 時半から 14 時まで、いくつかの班に分かれて森に入りました。私と家内は、森の周辺近くをほぼ左回りに散策しながら、樹上を飛び回る小鳥の姿を追いましたが、動きが早くて名前までは確認できませんでした。

今回、初めて探鳥会に参加しましたが、数年前にニュージーランドやオーストラリアで見た鳥の、人見知りしない姿に比較して、日本に飛来する鳥たちは自然環境の荒廃化の中で、本来の生態を少しずつ歪めているのではないかと感じました。そうした視点からすると、探鳥会の観察記録は、彼らの生態を改善・保全する貴重な資料なのだと改めて思いました。

#### 【幹事報告】

3 月 19 日、春を感じる穏やかな日差しの中で秋ヶ瀬公園探鳥会が実施されました。駐車場が満車で三ツ池公園エリアは断念。子どもの森、ピクニック公園で探鳥を行いました。開始早々からアトリを筆頭に、シジュウカラ、エナガ、コゲラ、カワラヒワ、シロハラ、アカハラ、カシラダカ、アオジ、シメ、ベニマシコなど沢山の小鳥が観察できました。レンジャクは見られなかったものの、最後にカワセミ、アカゲラ、マヒワも出現してくれ小鳥を十分に堪能した探鳥会でした。何より鳥たちの行動の中に冬と春の移り変わりを感じることができたことが大きな成果だったと思います。この時期の秋ヶ瀬公園は気候もよく木々も芽吹き前で小鳥の探鳥にはとても良い場所だと思います。欲を言えばもう少し猛禽類も姿をみせて欲しかったかも・・・。

< 認めた鳥 > カルガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、バン、オオタカ、カワセミ、コゲラ、アカゲラ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、アカハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、アトリ、カワラヒワ、マヒワ、ベニマシコ、シメ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ 計 34 種 番外ガビチョウ

< 参加者 > 池田日出男、井上正、小澤淳宏、桑森亮、小林博之、小林美智子、坂元孝行、坂元貴子、玉井修一郎、中根忠、松村直道、松村洋子、吉田隆行（幹事）船津登、青木典子、村井みとい 計 16 名

### 第 23 回「野鳥サロン」実施報告

3 月 29 日（水）並木本館第 3 会議室に於いて開催。まず小澤さんより環境省レッドリストに載った鳥一覧が紹介され、6 年前より尚一段と絶滅に近づいている種類が 12 種、新たに認定された鳥が 11 種、総計 150 種ある事が解説された。このリストの中には、我々が憧れて何時かは見たい... と思っている鳥も多く、又日本固有のノグチゲラ、ヤンバルクイナ、アカコッコ、アカヒゲ、アマミヤマシギの 5 種も含まれている。次いで、既に絶滅してしまった鳥達が何故絶滅に至ったのかを一つ一つ例を挙げて説明され、その多くが人間の都合だけで持ち込まれた動物によったり、食された結果であったりした事を解説。近年では、野ネコによる希少種の襲撃も大きな問題となっているなど、我々がもっと自然界に目を向けて対処しないと、もう余り時間がない事を痛感した。

次に金子より 40 年間続いている「手賀沼水鳥カウント」について、かつて年 17000 羽カウントされていた水鳥が、この間減少を続け 2012 年には 3816 羽にまで落ち込んだが、幸いこの数年は若干回復傾向であり 2016 年は 6000 羽台に、今年もそれをやや上回る数値であることが話された。この 40 年間にカウントされたベスト 20 位を紹介し、過去と現在の種類の変化を知って頂いた。最後に鳥は何故 1 本足で立つか... について

皆で話し合い、サロンを終了した。  
 <参加者>間野吉幸、畠中暁美、関口小夜子、古出洋子、石井俊子、桑森亮、小林博之、千葉洋、佐和橋みどり、松本勝英、松田幸保、芹澤正子、船津登、松村洋子、石渡成紀  
 (担当)青木典子、小澤淳宏、金子雅幸 計18名

### 3月役員会報告

日時 3月12日(日) 13:15~17:00

場所 北近隣センター並木本館

第3会議室

議事

#### 1. 平成29年度定期総会について

4月9日(日)開催の平成29年度定期総会資料について、事務局及び会計担当が資料に基づき提案し、検討の結果、一部を修正・追記することで最終案を決定しました。総会資料は次の通りです。

- ・平成29年度定期総会次第
- ・平成28年度事業報告(案)
- ・平成29年度事業計画(案)
- ・平成28年度決算・貸借対照表及び平成29年度予算(案)

なお、間野会長から役員改選案について口頭説明があり、了承されました。

#### 2. ほーほーどり256号掲載予定記事

会報256号の掲載記事について、資料に基づき検討し、執筆担当等を決定しました。

#### 3. 第24回「野鳥サロン」について

5月27日(土)に「野鳥サロン スペシャル」として、「シギチの渡り」をテーマに有識者をゲストにお招きして実施します。詳細は行事案内をご覧ください。

#### 4. 報告事項

以下の事項が報告されました。

2月22日開催の講演会「手賀沼の鳥」の実施結果

当会ホームページの課題についてホームページ運営委員会主幹から資料に基づき報告され、今後の方向について了承されました。

対外対応状況等  
事務局報告事項

### 講演会「手賀沼の鳥」開催報告

2月22日(水)午後2時から4時、我孫子市北近隣センター並木本館多目的ホールにおいて、当会と我孫子市鳥の博物館友の会との共催、我孫子市及び同教育委員会の後援の下に、鳥の博物館館長の斉藤安行さんを講師にお招きし、一般市民も対象とした講演会を開催しました。

講演のタイトルは「手賀沼の鳥 ~ここ25年で増えた鳥、減った鳥~」とされ、具体的内容は、

- ・水鳥の宝庫だった手賀沼
- ・なぜ手賀沼は水鳥の宝庫だったのか?
- ・手賀沼の環境と鳥類の生息状況の変遷
- ・25年間で増えた鳥、減った鳥
- ・最近、気になる手賀沼周辺環境の変化
- ・手賀沼の自然環境の持続的利用のために

というカテゴリーに分けられ、お話しが展開されました。

まず、縄文時代の貝塚遺跡から始まり古文書や江戸時代の手賀沼鴨猟の記録などをひも解き、更には8000年前からの地形の変遷などから手賀沼が水鳥の宝庫だったことを説明されました。江戸時代には鴨が贈答品として珍重されたこと、戦前は関東では和田沼(現在の北新田布施弁天先)がNo.1、手賀沼がNo.2のガンの飛来地で、3000羽のヒシクイやマガンの記録があることなどのお話しがありました。

手賀沼の環境と鳥類の変遷では、干拓による沼の面積の減少や水質悪化により水鳥個体数が激減したこと、1988~2012年の25年間で増えた鳥、減った鳥では、調査当初の水鳥個体数の9割を12種の鳥が占めており、そのうち優占種のランキング順位の入れ代わりや注目すべき種について解説されました。ランクNo.1はカルガモから近年ではオナガガモに変わったこと、増えた鳥はコブハクチョウ、カワウ、カンムリカイツブリ、減った鳥ではコアジサシ、ハシビロガモ、カルガモ、マガモ、オカヨシガモ、ミコアイサ、オオバンについて、手賀沼と全国での状況と増減の理由の説明があり、減少理由では、

- ・水田の乾田化や秋耕による餌の減少
  - ・ねぐら環境の隠蔽効果の減少
  - ・繁殖・営巣環境の悪化・減少
- などを示されました。

最後に、遊歩道整備による環境変化、国外からの移入種による影響、一般市民による餌やりの問題、ハス群生地の広がり、ナガエツルノゲイトウなど外来生物の影響など、手賀沼周辺環境の変化に対する懸念、田圃の価値の見直しや手賀沼のモニタリング調査の重要性を指摘され、お話しを締めくくりました。聴取者の皆さんは、手賀沼の水鳥と環境の現状について認識を新たにされ、人と鳥が共存する環境づくりの啓発の一助になったのではと思います。

当日の状況は、平日の開催にもかかわらず参加者総数 117 名と満席になり大盛況で、一般市民の皆さんの関心の高さが窺われま

した。当会の会員は 33 名（鳥博友の会会員との重複含め）、鳥博友の会会員を含めた主催者の会員数は 57 名で、非会員が 60 名と過半数（51%）を占め、参加者の居住地内訳では、我孫子市 87 名（74.3%）、柏市 17 名（14.5%）、その他県内 7 名（6.0%）、県外 4 名（3.4%）、不明 2 名（1.7%）、手賀沼流域居住者が約 90%を占めました。

このような貴重な機会を提供して頂いた斉藤さんに感謝申し上げるとともに、手賀沼の水鳥と環境に関心を持ち、鳥好きの仲間と輪が広がることを期待し、報告とします。

（報告者：桑森亮）

## 寄稿

### 手賀川、手賀沼のサギの塘(ねぐら)の観察 (2008~2016)

鈴木静治

#### 1、塘の主体のチュウサギ・アマサギについて

手賀川周辺では 4 月末から 5 月初め頃、東南アジアから渡ってきた数羽から十羽程度のチュウサギの群れ、1~2 羽のアマサギを見ることがあります。その後は見られなくなります。なぜいなくなるのだろうと不思議に思っていました。これは営巣、子育てで忙しくなり、巣の近くで餌獲りをするので営巣地の無い我孫子周辺には居なくなるためです。営巣地は野田市古布内、印西市吉田、香取市九美上などにチュウサギ、アマサギ、コサギ、ダイサギ、アオサギの混合コロニーがあるとされています。営巣、抱卵、育雛、幼鳥の独り立ちには約 3 ヶ月かかるため、子育ての終わった 8 月頃稲刈りの始まる田に群れて飛来し、見ることが出来るようになります。チュウサギ、アマサギは、魚、水棲昆虫を食べるダイサギ、コサギに比べ、昆虫を多く食べますので、稲刈り後、新芽の出る田でイナゴ、バッタ、蛙、ミミズなどを捉まえています。時には小さい蛇を捉まえている光景も目にも見えます。稲刈り、田起こしのコンバインの後から歩いて、コンバインにびっくりして飛び出すバッタ、蛙、およびミミズを楽に捉まえるのが一番効率的であることをチュウサギ、アマサギはよく知っているようです。このような場所では 100~200 羽のチュウサギ、10~20 羽のアマサギの群れを見ることも出来ます。8 月下旬から 9 月初めに稲刈り田に近い川岸の葦原に夕方、塘が形成され、数百羽のチュウサギが集まります。稲刈りが終わり 10 月中旬に塘から飛び立ち、10 月中に東南アジア目指して渡っていきます。

#### 2、浅間橋周辺の中州の塘(2008~2011 年)の観察

2008~2010 年 8 月~10 月初めに、朝早く手賀川の浅間橋、発作へ鳥見に行きますと、白いサギが葦原、中州に群れていましたが、当時は塘とは思いませんでした。2012 年本会 40 周年記念の小冊子「四季の手賀沼周辺散歩」を作成することになり、手賀川の浅間橋周辺を池田さん、古出さん、間野さん、宮下さんと担当することになり 2010 年 9 月~2011 年 11 月に調査をしました。2011 年初夏は田にシギチ、川の中州にヨシゴイがいて見て

いても楽しいのですが、盛夏～初秋の調査する午前中は暑いだけで、鳥はほとんど見られません。これでは記事にならないと思い、夕方、浅間橋に行ってみました。9/3には中州にチュウサギ約30羽がいました。ところが9/16夕方には、なんと約200羽もいてビックリしました。以降10/3夕方までの約2週間の間チュウサギ200羽がここを埒にしていました。中州の埒はチュウサギが主体ですが、アマサギ、コサギ、ダイサギが混じり、稀にアオサギ、ゴイサギもいることがありました。アマサギ、チュウサギは埒入りすると田で昆虫類を十分食べてきたせい、静かに休んでいます。ダイサギ、コサギは埒の中州の水辺で魚、水棲生物を狙っています。ゴイサギは夜行性のため暗くなると飛び立ちます。夕方、埒で休んでいるチュウサギ、アマサギの中に、遅れて埒入りするチュウサギの大きな群れが埒に降りたり、飛んできたアオサギがギャーと鳴くと埒でおとなしくしていたチュウサギが驚いて飛び上がることがありました。多い時は100～200羽のサギが上空を大きく数回回転した後、埒に降りる様子は天女達が優雅に舞いをしているようで見応えがあります。ところが10/4霧の朝、手賀川の上空を約200羽の白サギの群れが下流へ飛んで行く光景を目にしました。この時は何が起ったのか判りませんが、夕方、浅間橋の中州にはチュウサギが数十羽しかいませんでした。10/5朝、10/7夕方見ても30～50羽しかいません。ここでやっと10/4霧の中で見た白サギの群れは東南アジアへ渡り始めるための埒の移動または旅立ちであったことが判りました。2016年9/30手賀川沿いで日中、夕力を見ていると、浅間橋近くの中州に30羽位のチュウサギが休んでいるのに気が付きました。発作の他に、ここにも埒ができたのかと思ひ見ていると、対岸の稲田でコンバインが稲刈りしていました。そこをよく見るとコンバインの後を回っているチュウサギが30羽位います。チュウサギが田と中州を行き来していました。この田の稲刈りが終わると、チュウサギもすぐになくなり、念のため夕方、見に行ってもチュウサギはいませんでした。従って埒ではなく日中の一時的な休憩所であったようです。

### 3、手賀川、下手賀川合流点(発作)の葦原の埒(2012、2015、2016年)の観察

2012年8月下旬には、昨年2011年、浅間橋近くの中州にチュウサギの埒が出来ましたので、今年もここに埒をつくるものと思ひ待っていましたが一向に出来ません。8/29同じ手賀川2km下流の発作の葦原に夕方、数百羽集まり埒が出来ていることに気づきました。これだけいるのだから、朝早く日の出後に行けばよく見えるだろうと思い、翌日8/30朝6:30行ってみました。10羽位居るのみです。狐に化かされたようで唾然としました。行く時刻が遅かったのに気づき、8/30夕方、埒にチュウサギが集まっているのを確認した後、翌日8/31まだ暗いうちに家を出、薄暗い午前4:30から対岸より埒を見ていると、チュウサギの大群がボーと白く見えます。薄明かりの中5:15から1～2羽ずつ飛び出し、そのうちに10羽位ずつ続々と飛び出し、日の出前の5:30には数百羽の殆どが飛び立ちました。5:45～6:00になると太陽が見えました。渡りで沢山のエネルギーが必要なため朝早くから家族単位で餌場に向かうのだなと感心しました。埒の状況がわかり、安心して暫く見に行かなかったのですが、9/13夕方、久々に埒を見に行きました。ところがまた行ってビックリ、数羽しかいません。何処へ行ってしまったらどうかと手賀川沿いを調べたところ、昨年とは若干離れた2km上流の浅間橋近くの中州に約200羽の埒を造っていることが判りました。暫くの期間、この中州でチュウサギの埒入りを楽しむことが出来ました。10/5夕方200羽位埒にいたチュウサギの群れが、10/7夕方には30～40羽しかいませんでした。数十羽のチュウサギの群れが、何回もこの埒に降りず上空を通過し、手賀川上流方向へ飛んで行きました。何処へ行くのだろうと思ひ探したところ、10/13曙橋(手賀沼)の葦原にチュウサギの群れが降りるのを見つけました。このように2012年の埒は発作 浅間橋 曙橋と時とともに移っていきました。2015年は9/1発作に90羽程度の埒が出来、9/2には200羽程度、9/19～9/22には500羽程度の埒が出来、10/9には40羽位と激減しました。9/21の観察ではチュウサギ500羽の中に

アマサギが 30 羽程度いるのに気づきました。チュウサギは夕方早く罅入りするものが多いのですが、一部は日没後相当暗くなっても遅れて罅入りをするものもいます。アマサギは明るいうちから罅入りするようです。9/22 には夕方、罅入りをした川岸近くに数人を乗せたボートが近づいたことがあります。この時は 500 羽近くいたチュウサギのうち 300 羽程度が舞い上がり、田の方に降りました。ボートが去ると 100 羽程度が元の川岸に戻りました。田の方に避難した約 200 羽は近くの堤防の道をバイクが通ったため、また舞い上がり川の上空を巡回した後、罅に舞い降りました。このようなハブニングが時々あり、特に川の場合葦原と違い、見やすく、罅の観察もしやすいのです。2016 年には 8/19 に 70 羽位の罅が造られ、8/24 に 100 羽位、9/15~10/4 には 400~500 羽の罅が手賀川の両岸に出来ました。10/20 頃になると罅には 130 羽位、10/14~10/29 には 50~60 羽となり、11/1 にはコサギ主体の 23 羽の罅になり、チュウサギは見られませんでした。罅の移動に関連する現象が 9/30、10/12、10/14 に見られました。9/30 は夕焼けで空が赤く綺麗な中、既に 300 羽位のチュウサギが罅入りしていましたが、上空に 150 羽の群れが飛んで来ました。ところが上空を巡回するのみで罅には降りて来ません。更にその上空高く 150 羽程度の群れがまた飛んで来ました。この群れも巡回するのみで罅に降りません。20 分位見ていましたが、先に来た群れは最終的にこの罅に降り、後に来た群れはこの罅に降りず他に飛び去りました。10/12、10/14 には川岸の罅に 130 羽、63 羽と罅入りするチュウサギの数は少なくなってきたのですが、20 羽位の群れが上空を何回も巡回しましたが、5 羽位が罅に降りたのみで残りの 15 羽は他へ飛び去りました。このように罅に降りないチュウサギが多くなり、次第に他の場所に罅が移り、南へ移動または渡りをして行くのかと思いをはせました。

#### 4、手賀沼フィッシングセンター前の葦原の罅(2012~2016 年)の観察

曙橋の罅は時々しか見ていませんが、毎年最盛期で 400~500 羽のチュウサギが葦原を罅にしているようです。2013 年の記録を見てみますと、9/14~10/2 は 400 羽、10/18 は 40 羽、10/21 は 15 羽となっています。この場所は川岸と違い一方からしか見えないので見るだけは良いのですが、なかなか数えるのは難しい場所です。

#### 5、下手賀沼の白井市船戸の罅(2013 年)、手賀川の千間橋川岸の罅(2016 年)の観察

2012 年に発作に罅が出来たのに、2013 年は出来なく、その代り下手賀沼(白井市船戸)に罅ができました。9/13 夕方、手賀沼干拓一の橋より下手賀沼を見ますと 200 羽位のチュウサギが湖畔の葦原に降りるのがよく見えました。下手賀沼は堤防上が草ぼうぼうのため遠くからの観察しか出来ませんでした。2016 年 8/20~8/24 頃千間橋の川岸の葦原に 40~120 羽の罅が出来ましたが、8/25 にはその場所にチュウサギはいませんでした。このあたりのチュウサギは手賀沼下流へ飛んで行きましたので、多分、発作に罅替えしたのでしょう。

#### 6、まとめ

8 月末~10 月に手賀沼周辺に出来るチュウサギ主体の罅は稲刈り~二番穂の若芽の時期と重なるのですが、これはチュウサギの食物、昆虫の発生時期と関係していると思われる。罅のチュウサギの数は 9 月末~10 月初めが 500 羽位と最高に達し、その後、徐々に数が減り、10 月下旬には最盛期の 1 割位となり、11 月には殆どいなくなります。罅の観察は「日の出前の罅からの飛び立ち」、「夕暮れ前後の罅入り」と一般の鳥見と時刻が大きく異なります。しかし夕暮れ時、橙色の夕焼けから紺色に変わる空をバックにチュウサギの罅入りを見るのは楽しいものです。罅入りを見ていると時々ハブニングもあり、また罅が出来始めのころはチュウサギに混じりなかなか見られないアマサギも見られます。また夜活動するゴイサギが鳴きながら飛ぶ姿も見られます。毎年手賀川、手賀沼にはチュウサギの罅が来ていますので、まだ見ていない方は夕方、チュウサギの罅入りを今年の秋一度見てください。これらの罅入り、朝の飛び立ちは東北地方の伊豆沼、蕪栗沼のマガンを思い起こさせます。マガンの方は凍るような寒

い中の観察ですが、チュウサギの方はスケールが小さいのですが、やや暑い～やや冷える中で観察出来ます。なお本文中 2011 年 9/13～10/3 のチュウサギの天女の舞の記事は四季の手賀沼散歩(2012 年)に、2012 年 8/30～8/31 の朝の飛び立ちの記事は会報 229 号(2012.11-12 月号)に掲載しました。チュウサギ、アマサギ全般については中川雄一「ひと目でわかる野鳥」2010 年、営巣地については上田孝寿「ホオジロ」2013 年 10 月号を参考にしました。

## 鳥 だ よ り

1 月は冬鳥たちで賑わっていました。今冬はアトリの当たり年でした。手賀沼周辺の全域でかなりの数の群れを見ることが出来ています。シメやウソも数多く現れています。

オシドリは昨年の冬にはいませんでしたが、まだこの冬は昨秋から住み着いていました。イカルチドリ、イソヒヨドリ、キセキレイなども、昨年はこの時期には確認されていませんでしたが、今年は報告されています。

ヨシゴイ、ヒクイナは本来夏鳥ですが、冬のこの時期に見ることが出来て話題となりました。ヒバリは春になるとオスが空高く舞い上がってさえずり縄張りを主張します。春の訪れとして親しまれていますが、この「揚げ雲雀」が今年は 2 月 6 日とかなり早い時期に目撃されました。2 月 28 日のウグイスの初鳴きも早かったと思います。地球の温暖化のせいなのでしょう。春が早く来ているようにも思えました。

いよいよ春うららとなり、梅や桜の花にメジロやヒヨドリ、スズメが戯れています。もうすぐ渡りの季節になってきて、子育てシーズンに入ろうとしています。春の鳥たちにも期待したいですね。

- |                                       |           |                                       |      |
|---------------------------------------|-----------|---------------------------------------|------|
| 1.20[我孫子]シメ(1)<br>枝にとまって地鳴き           | 平岡考       | 1.26[片山新田(手賀沼側)]ホオアカ(1)<br>葦原の穂に止まる   | 船津登  |
| 1.23[片山]ウソ(6)<br>桜の枝で休んでいた            | 飯泉仁・飯泉久美子 | 1.27[戸張地区公園]シメ(1)<br>道路で採餌            | 吉田隆行 |
| 1.23[戸張地区公園]ルリビタキ(1)<br>枝から枝に移動し地面で採餌 | 吉田隆行      | 1.29[片山新田(手賀沼側)]クイナ(1)<br>入江を渡る       | 船津登  |
| 1.23[片山]アトリ(6)<br>鳴きながら移動             | 飯泉仁・飯泉久美子 | 1.30[高野山新田地先]ヒクイナ(2)<br>湿地(葎原)の中を動く   | 桑森亮  |
| 1.23[片山]ヤマガラ(2)<br>鳴きながら移動            | 飯泉仁・飯泉久美子 | 1.30[高野山新田地先]ミサゴ(1)<br>物色飛翔           | 桑森亮  |
| 1.23[布佐平和台]イカルチドリ(2)<br>調整池の水溜りを走り鳴く  | 鈴木静治      | 1.30[片山(手賀の丘公園)]ノスリ(1)<br>上空を飛ぶ       | 船津登  |
| 1.23[片山(手賀の丘公園)]トラツグミ(1)<br>地上で採食     | 船津登       | 1.30[片山(手賀の丘公園)]キクイタダキ(3)<br>杉の木の中で動く | 船津登  |
| 1.23[片山(手賀の丘公園)]ルリビタキ(2)<br>小枝に止まる    | 船津登       | 1.30[片山(手賀の丘公園)]ヤマガラ(5)               | 船津登  |
| 1.24[大井新田]アリスイ(1)<br>草原から飛び木に止まる      | 船津登       | 1.30[片山(手賀の丘公園)]ウソ(4)<br>桜の芽をついばむ     | 船津登  |
| 1.25[片山(手賀の丘公園)]フクロウ(1)<br>木で目を閉じて休む  | 船津登       | 1.31[高野山新田]オオハクチョウ(6)<br>岸近くの湖面で休む    | 齋藤武馬 |

- 2.01[呼塚新田]ベニマシコ(2)  
枯草の中で動く 船津登
- 2.01[戸張新田]ハヤブサ(1)  
95号鉄塔に止まる 船津登
- 2.01[大井新田(手賀沼側)]チュウヒ(1)  
葦原の上を飛ぶ 船津登
- 2.02[岡発戸新田]バン(1) 池を泳ぐ  
鈴木静治・船津登・間野吉幸・池田日出夫・金子雅幸・千葉洋
- 2.02[戸張地区公園]ルリビタキ(1)  
枝から枝へ鳴きながら移動 吉田隆行
- 2.02[岡発戸新田]トビ(1)  
斜面林の上空を滑空する  
鈴木静治・船津登・間野吉幸・池田日出夫・金子雅幸・千葉洋
- 2.05[別所]オシドリ(10)  
調整池の岸近くで休む、池を泳ぐ  
鈴木静治・間野吉幸・野口隆也・桑森亮・相良直己・松本勝英・村井みとい・船津登・古出洋子
- 2.06[相島]ヒバリ(3) 田の上空で鳴く  
鈴木静治
- 2.08[手賀沼]ミサゴ(3) 上沼 1 下沼 2  
金子雅幸・船津登・桑森亮
- 2.09[つくし野第3公園]アトリ(6)  
雪が降った日 畠中暁美
- 2.10[江蔵地]アカゲラ(1) 林より飛び立つ  
鈴木静治
- 2.10[千間橋]ハヤブサ(1)  
強風の中、田の上を飛ぶ 鈴木静治
- 2.10[北新田]ミヤマガラスとハシボソガラスの群れ(20)  
村井みとい
- 2.11[手賀新田]タゲリ(13) 田で採食  
船津登
- 2.11[片山新田(手賀沼側)]ヒクイナ(1)  
水辺で休む 船津登
- 2.11[大堀川河口]イソシギ(1) 干潟で採餌  
吉田隆行
- 2.12[下沼田]ノスリ(1)  
田の電柱に止まる 鈴木静治
- 2.12[千間橋]ミコアイサ(6)  
強風の中、川中を泳ぐ 鈴木静治
- 2.13[光ヶ丘廣池学園]アカゲラ(1)  
東門近くを鳴きながら移動 飯泉仁
- 2.13[布佐平和台]イカルチドリ(2)  
調整池の水溜りで餌探し 鈴木静治
- 2.13[片山(手賀の丘公園)]オオタカ(1)  
上空を飛ぶ、カラスが後を追う 船津登
- 2.13[片山(手賀の丘公園)]キクイタダキ(2)  
杉の木の中で動く 船津登
- 2.13[片山(手賀の丘公園)]トラツグミ(1)  
地上から飛び木に止まる 船津登
- 2.13[片山(手賀の丘公園)]ウソ(8)  
桜の芽をついばむ 船津登
- 2.13[片山(手賀の丘公園)]シメ(1)  
木に止まる 船津登
- 2.14[布佐平和台]ヤマガラ(1) 庭に飛来  
鈴木静治
- 2.14[布佐平和台]イカルチドリ(2)  
調整池で餌探し 鈴木静治
- 2.14[上沼]オカヨシガモ(2)  
葦の茂みから沼へ が飛び出す。  
吉田隆行
- 2.15[布佐平和台]イカルチドリ(2)  
調整池で餌探し 鈴木静治
- 2.15[北新田]タゲリ(9)  
水田(水が入っていない)  
畠中暁美・桑森亮他9名
- 2.15[北新田]イソシギ(5) 排水路  
畠中暁美・桑森亮他9名
- 2.15[北新田]ベニマシコ(1) 越流堤傍  
畠中暁美・桑森亮他9名
- 2.15[北新田]クサシギ(1) 4号排水路  
畠中暁美・桑森亮他9名
- 2.15[北新田]トビ(3) 飛翔  
畠中暁美・桑森亮他9名
- 2.15[北新田]チュウヒ(1) 飛翔  
畠中暁美・桑森亮他9名
- 2.15[北新田]チョウゲンボウ(2) 飛翔  
畠中暁美・桑森亮他9名
- 2.18[光ヶ丘廣池学園]アトリ(82)  
地面で採餌 飯泉仁
- 2.18[曙橋]タゲリ(16)  
耕起していた水田で採餌  
飯泉仁・飯泉久美子
- 2.18[大井新田先手賀沼]ミサゴ(1)  
水面の杭に止まっていた  
飯泉仁・飯泉久美子
- 2.18[片山新田先手賀沼]ミコアイサ(1)  
雄が水面を移動 飯泉仁・飯泉久美子



- 2.18[箕輪新田先手賀沼]シメ(1) 金子雅幸・船津登・桑森亮  
飛翔し移動 飯泉仁・飯泉久美子
- 2.18[箕輪新田先手賀沼]オオハクチョウ(7)  
蓮田群生地内を移動 飯泉仁・飯泉久美子
- 2.18[布佐平和台]ヤマガラ(2)  
庭木に止まり殻付き落花生から実を出し  
食べる 鈴木静治
- 2.20[岡発戸谷津]オオタカ(1)  
斜面林上を飛翔 桑森亮
- 2.20[岡発戸谷津]キセキレイ(1)  
畦を歩く 桑森亮
- 2.20[片山(手賀の丘公園)]フクロウ(1)  
木に止り休む 船津登
- 2.23[戸張新田]ハヤブサ(1)  
鉄塔 95 上部に止まっていた 吉田隆行
- 2.24[大井新田地先上沼]キンクロハジロ(1)  
泳ぎながら採餌 吉田隆行
- 2.25[高野山新田]クイナ(1)草叢を移動  
吉田隆行
- 2.25[高野山新田]アリスイ(1)  
遊歩道桜の木から下沼の竹杭へ移動  
吉田隆行
- 2.26[酒井根 6 丁目下田の森]ツミ(1)  
北方向上空から鳴き声 飯泉仁
- 2.26[酒井根 6 丁目下田の森]オオタカ(1)  
雄成鳥が枝に飛来 飯泉仁
- 2.27[片山(手賀の丘公園)]トビ(2)  
上空を飛ばす 船津登
- 2.27[片山(手賀の丘公園)]フクロウ(1)  
木に止まり休む 船津登
- 2.27[片山(手賀の丘公園)]トラツグミ(1)  
地上から飛び木に止まる 船津登
- 2.27[大井新田地先上沼]シメ(1)  
木の枝で採餌 吉田隆行
- 2.28[岡発戸谷津]ウグイス(2)  
囀り(初鳴き) 桑森亮
- 3.01[鷲野谷新田]チョウゲンボウ(1)  
電柱に止まる 船津登
- 3.02[光ヶ丘廣池学園]アトリ(63)  
芝生広場の地面で種を採餌  
飯泉仁・飯泉久美子
- 3.03[手賀沼]ミサゴ(2) 上沼 1、下沼 1  
金子雅幸・船津登・桑森亮
- 3.03[手賀沼]ノスリ(1) 下沼 1
- 3.06[酒井根 6 丁目下田の森]アカゲラ(1)  
鳴きながら移動 飯泉仁
- 3.06[片山(手賀の丘公園)]オオタカ(1)  
林の中でキョキョと鳴く 船津登
- 3.06[片山(手賀の丘公園)]クイタダキ(2)  
杉の木の中で動く 船津登
- 3.06[片山(手賀の丘公園)]ヤマガラ(3)  
船津登
- 3.06[中峠]シメ、ジョウビタキ、アカハラな  
どの冬鳥は渡りの準備か、散見します  
松本勝英
- 3.06[大堀川]ベニマシコ(1)  
葦の茎から猪子草に移動 吉田隆行
- 3.06[大堀川]クイナ(1) 水浴び  
吉田隆行
- 3.07[大井新田(手賀沼側)]アリスイ(1)  
草原から飛び木に止まる 船津登
- 3.09[柏公園]アトリ(5) 藪に入った  
吉田隆行
- 3.09[岡発戸新田]チュウヒ(1)  
沼岸近くを飛ばす  
鈴木静治・船津登・間野吉幸・  
池田日出夫・金子雅幸・千葉洋
- 3.10[大森地区]ウソ(2)  
庭先から高いソメイヨシノの枝先に飛ん  
だ 古出洋子
- 3.12[光ヶ丘廣池学園]アトリ(42)  
ケヤキの木で休んでいた 飯泉仁
- 3.12[戸張新田(ヒドリ橋西側の入江)]ヨシ  
ゴイ(1) 百瀬喬
- 3.12[戸張新田(ヒドリ橋西側の入江)]クイ  
ナ(1) 百瀬喬
- 3.13[片山(手賀の丘公園)]オオタカ(2)  
木に並んで止まる 船津登
- 3.13[片山新田(手賀沼側)]クイナ(1)  
葦原の中を動く 船津登
- 3.13[片山新田(手賀沼側)]コチドリ(1)  
干潟で採食 船津登
- 3.14[片山新田(手賀沼側)]ホオアカ(2)  
葦に止まる 船津登
- 3.16[北新田(金谷堰、2号排水路)]イソシ  
ギ(5) 畠中暁美・桑森亮・松田幸保他 3 名
- 3.16[大井新田(手賀沼側)]ヨシゴイ(1)  
水辺で休む 船津登

- 3.16[大井新田地先上沼]ミコアイサ(2)  
2羽で採餌 吉田隆行
- 3.16[北新田 2号排水路]クサシギ(1)  
畠中暁美・桑森亮・松田幸保他 3名
- 3.18[片山]ヤマガラ(1)  
カンヒザクラの花びらを食いちぎる  
飯泉仁・飯泉久美子
- 3.18[片山]シメ(1)  
鳴きながら移動 飯泉仁・飯泉久美子
- 3.18[片山新田先手賀沼]バン(3)  
浅瀬を移動 飯泉仁・飯泉久美子
- 3.18[箕輪新田先手賀沼]ミサゴ(1)  
水面の杭で周囲を警戒  
飯泉仁・飯泉久美子
- 3.18[岡発戸谷津]ベニマシコ(1)  
木に止まる 船津登
- 3.18[高野山新田]ヒクイナ(2)  
水辺を動く 船津登
- 3.18[北柏ふるさと公園]ベニマシコ(2)  
がセイタカアワダチソウで採餌  
吉田隆行
- 3.19[光ヶ丘廣池学園]アトリ(2)  
ケヤキの木に飛来 飯泉仁・飯泉久美子
- 3.20[片山(手賀の丘公園)]オオタカ(1)  
林の中でキョキョと鳴く 船津登
- 3.20[片山(手賀の丘公園)]ノスリ(1)  
上空を飛ぶ 船津登
- 3.20[片山(手賀の丘公園)]ウソ(3)  
木の芽をついばむ 船津登

今回寄せられた鳥の全種名

アオサギ、アオジ、アカゲラ、アカハラ、アトリ、アリスイ、イカルチドリ、イソシギ、イソヒヨドリ、ウグイス、ウソ、エナガ、オオジュリン、オオタカ、オオハクチョウ、オオバン、オカヨシガモ、オシドリ、オナガ、オナガガモ、カイツブリ、カケス、カシラダカ、カルガモ、カワウ、カワセミ、カワラヒワ、カンムリカイツブリ、キクイタダキ、キジ、キジバト、キセキレイ、キンクロハジロ、クイナ、クサシギ、ゴイサギ、コガモ、コゲラ、コサギ、コチドリ、

コブハクチョウ、シジュウカラ、シメ、ジョウビタキ、シロハラ、スズメ、セグロカモメ、セグロセキレイ、ダイサギ、タゲリ、タシギ、タヒバリ、チュウヒ、チョウゲンボウ、ツグミ、ツミ、トビ、トラツグミ、ノスリ、ハクセキレイ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ハジロカイツブリ、ハヤブサ、バン、ヒクイナ、ヒドリガモ、ヒバリ、ヒヨドリ、ピンズイ、フクロウ、ベニマシコ、ホオアカ、ホオジロ、ホシハジロ、マガモ、ミコアイサ、ミサゴ、ミヤマガラス、ムクドリ、メジロ、モズ、ヤマガラ、ユリカモメ、ヨシゴイ、ルリビタキ

計 86種

<番外種> カワラバト、コジュケイ

今回の投稿者の総投稿件数

船津登	207
畠中暁美	5
畠中暁美・桑森亮他 9名	33
平岡考	4
飯泉仁	319
飯泉仁・飯泉久美子	144
金子雅幸・船津登・桑森亮	79
古出洋子	10
桑森亮	42
松田幸保	1
松本勝英	12
百瀬喬	2
村井みとい	3
齋藤武馬	1
鈴木静治	99
鈴木静治・間野吉幸・野口隆也・桑森亮 相良直己・松本勝英・村井みとい	1
船津登・古出洋子	1
鈴木静治・船津登・間野吉幸・池田日出夫 金子雅幸・千葉洋	50
畠中暁美・桑森亮・松田幸保他 3名	28
田中功	2
吉田隆行	51
総計	1093

(弘實和昭)

## 【会員だより】( ab-yacho より )

### 【北新田にミヤマガラス】

松田幸保 2017.02.10

車で野田へ向かう途中、北新田の農免道路わきにミヤマガラス約 20 羽がいました。進行方向には男体山の奥に日光白根の雪山がよく見えました、年々はっきり見えるようになってきた印象です。

### 【岡発戸谷津にホオジロたちのさえずり】

桑森亮 2017.02.21

昨日の午前中に岡発戸谷津を久しぶりに歩きましたが、ホオジロ、シジュウカラ、ヤマガラが囀りを始めていました。

### 【少し遅い鳥だよりですが】

平岡考 2017.02.21

1/27 に山階鳥研の広報の窓の外にアカハラを観察しました。またモズもおそらく同じメスと思われるものが職場の窓から、1/27 を含めこの前後にたびたび見られました。

### 【調整池にイカルチドリ&タシギ】

鈴木静治 2017.02.25

1/23-2/22 布佐平和台の調整池でイカルチドリ 2 羽が水溜りで採食する姿が見られました。時にはタシギ数羽見られたこともありました。この時期雨が降らず、田が完全な乾田のため調整池の水溜りで水生昆虫などを獲っていたものと思われます。2/23 雨の後はイカルチドリを見ていません。

### 【ウグイスの初囀り】

畠中暁美 2017.02.28

越流堤で 2 月 25 日 9:00 頃鶯の初囀りを聞きました。上手にホーホケキョと鳴いていましたので、ご報告です。26 日にもお友達を誘って行ってみましたら、やはりホーホケキョと声が聞こえました。カルガモが 2 号排水路に 15 羽集まっていたました。

## 会からのお知らせ

### < 当会ホームページの作成に参加してみませんか！ >

当会ホームページの作成に興味のある方はこの機会にぜひお申込み下さい。

内容：当会ホームページ担当の吉田さんが懇切丁寧にお教え致します

条件：メール等のパソコンを扱える方

員数：2～3名

締切：5月27日(土)

申込：野口隆也まで 電話：04-7163-7898

### < 2016 年度当会活動の記録 DVD を好評配布中！ >

本年度も、昨年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの一年間の当会の活動の記録をまとめた「当会 2016 年度活動の記録 DVD」を現在配布中です。

この DVD には、探鳥会や野鳥サロン、映写会、各種イベントへの模様、懇親会や芋煮会な

ど、1年間の当会の全ての活動が写真を加え、余すところ無く記録されています。  
また、当会の会員の皆さまから寄せられた珠玉の写真、動画を集めた写真集も収録されています。永久に記録として残すとともに、楽しかった記憶を新たにし、会員の皆さまにお楽しみいただきたく思います。

特別付録として、以下のスライドショーも収録されています。

当会作成 「台湾探鳥旅行紀行記」スライドショー

JBF2016 当会が交流している「台湾」、「モンゴル」の出展紹介スライドショー  
台湾とモンゴルの素晴らしい鳥の写真の数々をお楽しみください。

DVD は予約いただいた皆様に当会のイベント時等の場で実費（300円/枚）引き換えでお渡しいたします。皆様のお申込みをお待ちしています。

入手ご希望の方は、受け渡し希望日(当会主催イベント)を添え、担当幹事相良、北崎までお申込みください。

申し込み先メール・アドレス: ab-yacho-dvd@abikoyacho.sakura.ne.jp

担当幹事 相良、北崎

#### < 新入会員紹介 >

2、3月の新入会員は有りませんでした。

#### < ご寄付 >

山野辺伸作さん、瀬藤妙子さん、池内大典さん、天野正臣さんよりご寄付を頂きました。  
厚くお礼申し上げます。

#### < 平成 29 年度定期総会 >

当会の平成 29 年度定期総会が、4月9日(日)、北近隣センター並木本館で開催され、28 年度事業報告、決算報告、新年度事業計画および予算について審議の結果、承認されました。(要旨は次号掲載予定)

なお、役員改選があり会長・副会長については、間野会長と古出副会長は再任し、野口副会長は退任、その後任に船津登氏が選任されました。会計監査については、六角氏と類地氏が再任しました。

### ほーほーどり No. 256 (2017年5~6月号)

発行 2017年5月1日

発行人 間野吉幸

編集人 青木典子、古出洋子、小玉文夫、佐々木隆、千葉洋、野口紀子、松本勝英、  
宮下三禮

事務局 〒270 1143 我孫子市天王台 2-15-17 桑森亮 Tel: 04-7182-3149

URL <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140 - 2 - 647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費 2,000 円 (大学生・高校生 1,000 円、中学生以下 500 円、家族会員 無料)